

調査レポート

今月のグラフ(2025 年 9 月)

原油、米国採算価格に近づき下げ渋りか

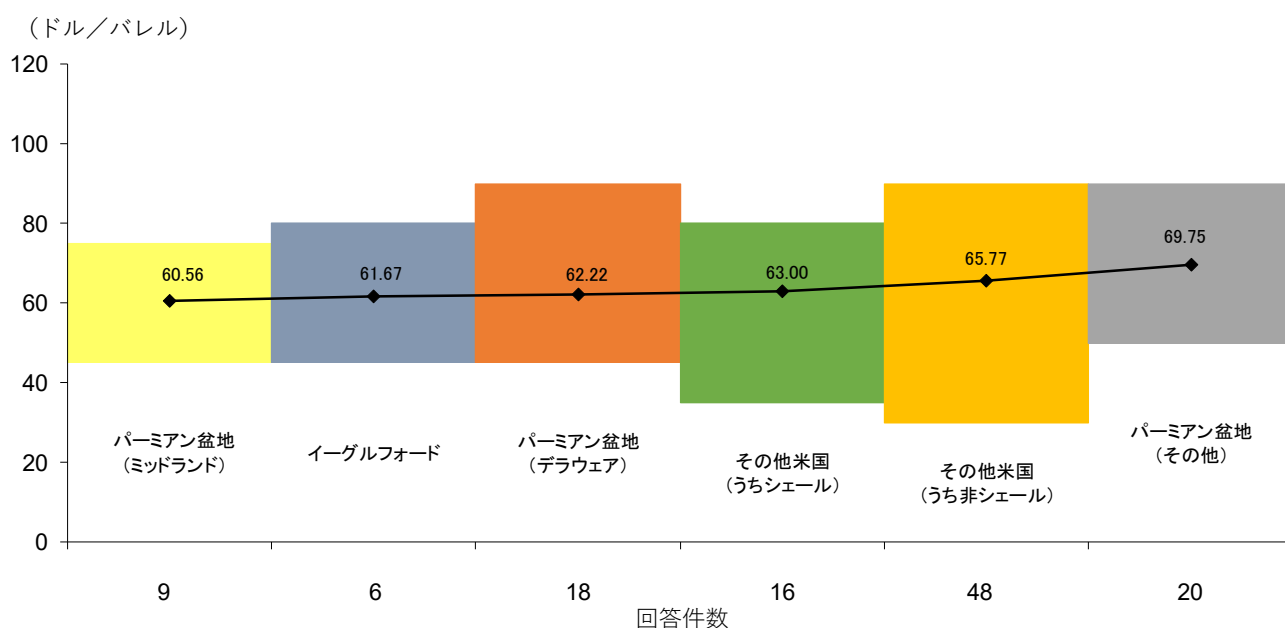
調査部 主任研究員 芥田知至

2025 年の原油相場はやや軟調に推移している。4 月 2 日に大方の予想を上回る高税率の相互関税が発表されて米中の貿易戦争や世界景気悪化への懸念が強まったことや、3 日に石油輸出国機構(OPEC)と非 OPEC 産油国で構成する「OPEC プラス」の有志 8 ヶ国が増産加速を決定したことで、9 日には、米国産の WTI 原油が 1 バレルあたり 55.12ドル、欧州北海産のブレント原油が 58.40ドルと 2021 年 2 月以来の安値をつけた。その 9 日には相互関税の 90 日間停止が発表されて、相場はやや持ち直したが、4 月末には、サウジアラビアが原油の価格下落を容認し、増産する姿勢を示唆したと報道され、上記安値に近づいた。

6 月中旬に、イスラエルによるイランへの先制攻撃、イランの報復、米国によるイランの核施設への攻撃などを受けて、原油相場は WTI で 78ドル台、ブレントで 81ドル台まで上昇したが、その後、緊張は緩和して、原油相場は、いったん米イラク大使館が職員を避難させて緊張感が強まった 6 月 11 日頃以前の水準に下落した。

足元の WTI の相場水準は、すでに米パーミアン盆地などでシェール油田を新規開発する際の採算ラインとされる 60ドル強程度まで下落している。当面、OPEC プラスの増産や米中の景気減速が弱材料として意識される一方で、米原油生産の鈍化が強材料として意識されて、原油相場の大幅下落は回避される可能性がある。

図表 米国各地の原油採掘の採算価格



(注) 2025 年 3 月 12~20 日調査。図中数値は平均値

(出所) Federal Reserve Bank of Dallas

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。